

## 見た目の年齢を左右するのは顔の向きや皮膚の動き ～表情をつくる皮膚の動きで40代を境に老け顔印象に、年齢判断の視線は頬にも集中～

ポーラ・オルビスグループのポーラ化成工業株式会社(本社:神奈川県横浜市、社長:三浦卓士)は

- 1) 見た目の年齢が顔の向きや顔の皮膚の動きによって変わること
- 2) 見た目の年齢を決める際に、特に頬が重要な部位であること

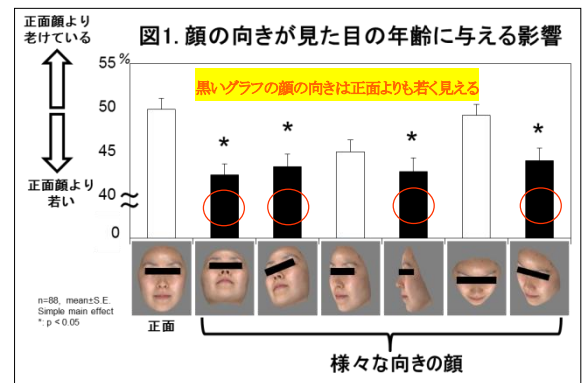
を示唆する研究結果を得ました。

本研究は学校法人工学院大学(所在地:東京都新宿区)との共同研究で、本成果は来る11月27日(金)に開催される第77回日本化粧品技術者会(SCCJ)研究討論会で発表されます。

### 研究の背景

これまで、ヒトの見た目の年齢印象を調査する研究では、正面から見た真顔や、その写真・画像などの静止画を用いてきました。一方、実生活において目にするヒトの顔は正面の真顔だけでなく、斜め上を向いたり、横顔であったりと方向は様々です。また会話をしながら作られる表情、顔の皮膚の動きなどを見ながら年齢に関する情報を得ていると考えられます。

そこで本研究では、実生活を反映した条件で調査することにより、何がヒトの見た目の年齢を決めるのか、真の原因を探る検討を世界で初めて行いました。



### 実験の方法※と結果

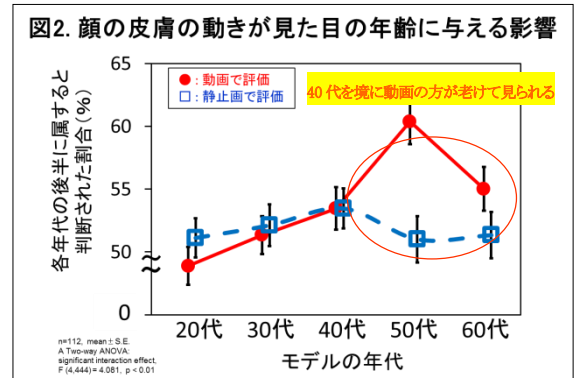
※各実験法の詳細は次ページ資料参照

上記の背景より日本人女性を対象に、顔の向きや顔の皮膚の動きが見た目の年齢に及ぼす影響を調べる実験を行いました。その結果、以下のことが分かりました。

- 1) 正面から見るよりも若く見える顔の向きがある(図1)
- 2) 表情をつくる際に皮膚が動くことで、40代を境に老けた印象を与えてしまう(図2)

また、見た目の年齢を判断する際、観察者は被験者の顔のどの部位を見ているのか、について調べました。その結果、顔から個人を特定するときには、目・鼻・口を注視することが知られていますが、

3) 見た目の年齢を判断する際には、“目”の他に、個人を特定するときには重要でなかった“頬”にも視線が向けられる(図3)ということが分かりました。

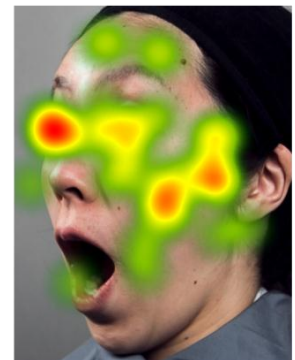


### 見た目の年齢は顔の向きや皮膚の動きに影響され、視線は頬にも集中する

以上のことより、私達は実生活において、相手の顔の向きや頬の皮膚の動きに注目して見た目の年齢を判断している可能性が高く、シワ・たるみ等の、よく知られた老徴とは異なる、新たな老化徴候の存在が示唆されました。

今後、皮膚の動きが老けた印象を与えるメカニズムや、顔の向きによる見た目の年齢の違いの原因を明らかにし、相手に老けた印象を与えず、若々しい印象を与える方法・化粧法の開発と提案に結び付けたいと考えています。

**図3 見た目の年齢判断時の視線解析結果**

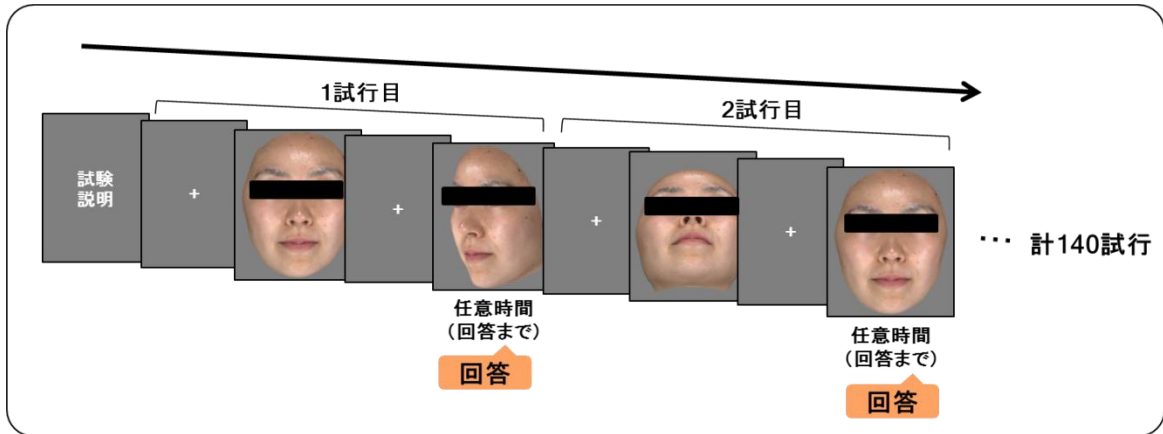


※赤い部分が視線が集中して向けられる部位

## 【参考資料】

### 1. 異なる顔の向きから見た目の年齢を判断する実験

- ◆モデル : 20-60代の日本人女性、各年代56名、総計280名
- ◆観察者 : 20-40代の日本人女性 総計88名
- ◆実験フロー :  
観察者に対し、モデルの真顔の正面画像と、顔の向きを変えた画像(全7つの向きの画像のいずれか)を前後ランダムに呈示し、年齢が上と感じたほうの画像を選択させる。



### 2. 顔の皮膚の動きが見た目の年齢に与える影響の確認実験

- ◆モデル : 20-60代の日本人女性 各年代16名 総計80名
- ◆観察者 : 20-40代の日本人女性 総計112名
- ◆実験フロー :  
観察者に対し、あらかじめモデルの年代を告知した上で(たとえば30代)、モデルが表情を作る際の動画、あるいは静止画を呈示する。その後、告知された年代の前半/後半のどちらかにモデルが属するかを観察者に回答させる(たとえば30代前半あるいは後半)。

